

2002年(平成14年)2月15日 No.1218

目 次

インタビュー

ベラルーシ経済の刷新は可能か.....	1
L. ザイコ 分析センター「戦略」所長	
キーパーソン.....	7
カザフスタン新内閣の顔触れ / 7	
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート.....	7

インタビュー

ベラルーシ経済の刷新は可能か

L. ザイコ 分析センター「戦略」所長

はじめに

ベラルーシでは昨年の9月9日に大統領選の投票が実施され、ルカシェンコ大統領が圧倒的大差で勝利をものにし、再選を果たした。ルカシェンコ大統領は9月20日に就任式を挙行し、すでに二期目の政権をスタートさせている。

周知のように、ベラルーシでは1994年に政権に就いたルカシェンコ大統領が強権的支配体制を確立しており、市場化・民主化に逆行する路線がとられてきた。今回のルカシェンコ大統領の再選で、独立後の失われた10年に続き、ベラルーシがさらに5年を失うのではないかという懸念が国際的に強まっている。

しかし、最近のベラルーシの経済的舵取りには、従来にはなかった注目すべき動きも見られる。経済の自由化や民営化が緒に就いたり、ロシア資本がベラルーシに進出したりといった具合である。

そこで、ベラルーシを代表する民間エコノミストとして知られるL. ザイコ氏（分析センター「戦略」所長）にこのほどミンスクで話を聞いた。ザイコ氏は対ロシア関係をテコとするベラルーシ経済の刷新の可能性について、率直な意見を述べてくれた。以下はその主なやりとりである。